

## カメムシそう理大臣

町田市立つくし野小学校 三年 伊賀いが陽一よういち

陽太とお父さんはさん歩していました。

今日はせんきよのとうひょう日。けいじ板には、立こうほした人たちのポスターがはつてあります。

お父さん「今日はせんきよのとうひょうがあるんだ。」

陽太「せんきよつてなに？」

お父さん「国みんを代表して国のことを考えてくれる人をえらぶんだ。」

陽太「へえ。」

虫ずきの陽太はけいじ板にカメムシがくつついているのを見つけました。

陽太「あ、カメムシがいる。」

通りがかりのおじさんは「へえ、カメムシか。」と言いました。そのうしろのおばさんも「ほんとだ、カメムシね。」と言いました。

陽太「カメムシも立こうほしているみたいだね。」

お父さん「カメムシも当せんするかもね。」

通りがかりの人たちも「カメムシだ。」と口をそろえて言いました。

その日の夜のニュースは大変なことになっていました。なんと、カメムシが当せんしたのでした。

さいしよの国会です。カメムシがきんちようしながらたて物に入ると、とく別な小さいバッジをつけてもらいました。国会が始まりました。ぎいんさんたちが大声でぎろんしています。カメムシはその声におどろいてしまい、「プーン。」とくさいオナラをしてしまいました。

ぎいんさんたちは「くさいぞ、くさいぞ！」「なんだこのにおいは！」「カメムシか？」「カメムシだ、ぜつたいそうだ!!」とさけびながら部屋を出ていってしまいました。

そのとき多数決がとられました。ぎいんさんたちがみんな「カメムシだ！」とさけんだので、その声でひょうがとられてしまいました。

けっかが出ました。「カメムシ君、四百びょう。」「ないかくそう理大臣は、カメムシ君に決まりました。」

カメムシそう理大臣がたん生しました。

市長賞  
伊賀陽一「カメムシそう理大臣」

審査員講評

\*\*\*\*\*

完璧な作品でした。「掲示板にカメムシがとまっていた」という日常のひとコマからのファンタジーな展開は、大胆なものにとても自然です。小さなバッチをつけてもらったところなど、細部の描写にうっとりしました。カメムシの特性を活かした結末はもちろん、なんとなく風刺っぽく読めるのも圧巻です。

—— 藤岡 みなみ